

## &lt;Press Release&gt;

## ■電車にゆられて、まちを想う。 中吊りギャラリー（函館編）

慶應義塾大学・加藤文俊研究室（環境情報学部）では、ひとびとの集う「場」をテーマに調査・研究をすすめています。創造性に富み、活気のある「場」を成り立たせる要件を、おもに都市社会学やコミュニケーション論の観点から考察しています。「場」は、たんなる物理的な環境ではなく、ひととひととの相互作用が前提となって生まれます。その意味で、「場」はコミュニケーションの問題としてアプローチする必要があります。さらに、ひとびとがみずからの状況をどう理解するかは、個人的な問題であると同時に、社会的な関係の理解、環境との相互作用の所産として理解されるべきものです。「いつでも・どこでも」の“ユビキタス社会”であるからこそ、「いま・ここ」が際立ちます。行きつけの場所やたまり場は、よりユニークであること、“その時・その場”でこそ得られる「何か」があるからこそひとびとを惹きつけるはずで、このプロジェクトは、その「何か」を知ることを目指します。ITを前提として変わりゆくまちの風景やコミュニティを生活者の立場から理解し、これからのひとびとの日常生活について考えることがねらいです。

2007年9月29日（土）～30日（日）にかけて、函館市電沿線を中心とするエリアでフィールドワークをおこないました。20名ほどのゼミ生たちは、1泊2日という短い滞在ではありましたが、「市電が見える」「市電から見える」をキーワードに市電沿線を歩き、みずからの視点で函館というまちについて考え、その成果を中吊り広告のフォーマットでまとめました。通常、フィールド調査の成果は、報告書やプレゼンテーションという形で公開されることが多いのですが、今回は、地域の人びとにより近づく方法として、電車を“移動ギャラリー”に見立て、函館市電の車両内に調査報告を掲出することにしました。調査結果を地域コミュニティに問うと同時に、さらにあたらしい関係性を育むためのきっかけづくりになることを期待しています。

※本調査は、株式会社電通ワンダーマンとの産学連携プロジェクトの一環として実施しました。

## 中吊りギャラリー（函館編）概要

- 日時 2007年11月19日（月）～12月2日（日）
- 場所 函館市電 530号（期間中、この車両が「中吊りギャラリー」になります。）  
※530号の運行スケジュールは、函館市交通局へお問い合わせください。  
※中吊りは、全部で19種類ほどあります。右下のロゴが目印です。

■プロジェクト・ウェブサイト <http://vanotica.net/hakop1/>

## ■連絡先など

（本プロジェクトに関する質問等）

加藤文俊（かとうふみとし）  
慶應義塾大学 環境情報学部 准教授  
携帯 090-9829-5590  
メール [fk@sfc.keio.ac.jp](mailto:fk@sfc.keio.ac.jp)  
TEL. 0466-49-3619（研究室直通）  
住所 〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤5322 慶應義塾大学 環境情報学部 加藤文俊研究室  
※メールをいただくのが一番確実です。



URL <http://fklab.net/>  
FAX. 0466-47-5041

※参考：2007年7月には、江ノ電（神奈川県）で同様の試みを実施しました。

- ・プロジェクト概要 [http://vanotica.net/enoden\\_gallery/](http://vanotica.net/enoden_gallery/)
- ・湘南経済新聞（2007/7/14）江ノ電車内で中吊りギャラリー、慶応大SFC学生が成果発表で  
<http://shonan.keizai.biz/headline/294/index.html>